

■九州朝日放送番組審議会議事概要（5月分）

第583回	九州朝日放送番組審議会 議事概要
開催年月日	平成28年5月9日（月） 午後3時30分～5時00分
開催場所	九州朝日放送 本社役員会議室
出席者	<p>委員総数 8名 出席委員数 5名 欠席委員数 3名（レポート提出）</p> <p>（出席委員） 古宮 洋二委員、松村 茂雄委員、三好 京子委員、鶴 利絵委員、藤田 ひろみ委員</p> <p>（放送事業者側出席者名） 代表取締役社長 武内 健二 常務取締役編成制作局長 半田 俊彦 取締役ラジオ局長 清水 透 報道局長 松延 健次 報道局長兼報道部長 臼井 賢一郎 テレビ編成部長 坂井 剛 制作部長（KBC映像） 幸丸 佳文 プロデューサー（KBC映像） 三角 文昭 視聴者・広報室長兼番審事務局長 久芳 康治 事務局員 都合 信司、松田 泰久</p>
議 題	<p>テレビ番組 「ロンブク☆淳」 ＜放送日＞平成28年4月23日・30日（土） 正午～午後0時55分 「熊本地震」報道全般</p> <p>1. 平成28年5・6月ラジオ・テレビ番組編成状況の報告 2. 平成28年4月視聴者・聴取者応答状況の報告 3. その他</p>
議事の概要	<p>◎委員の意見（概要）</p> <p>「ロンブク☆淳」について委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○土曜日の昼に相応しい、家族揃って楽しめる番組だと思う。 ○出演者のロンポンブーツ・田村淳さんから想像していたイメージと異なり、地元目線で街歩きをしながら地域の方と穏やかに接していて、若い人から年配の方まで安心して視聴できる番組だと感じた。 ○KBCの山崎アナウンサーがおっとりとしていて、縦横無尽な淳さんとは良いコンビだと思う。 ○4月にリニューアルした直後の番組であり、今後、回を重ねるごとに田村淳さんの個性が発揮され、番組も進化して行くと思うが、全国版のタレントが主役の貴重なローカル番組であり、大事に育てて欲しい。 <p style="text-align: right;">などの評価を頂きました。</p> <p>また、気になる点や望むこととしては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KBCの「前川清の笑顔まんてんタビ好き」などの先発番組と比較してあまり番組の個性が感じられない。 ○番組内の「すごかろうもん」のコーナーは会議室等で展開されたせいもあり、やや唐突感があった。 ○「街歩き番組」として今後、どうなるか注目したい。 ○宮地獄神社参拝の際の作法が気になったが、編集のせいなのか。 <p style="text-align: right;">などの批評や提言を頂きました。</p> <p>これらに対して、担当者から、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京で活躍する淳さんのフィルターを通した福岡再発見の中に地元愛を見出すという点で、“人情、ふれあい旅”の「タビ好き」と差別化したい。 ○宮地獄神社参拝のシーンは編集上生じた映像で、淳さんは作法に従って参拝している。 ○番組リニューアルにより、まずはより淳さんの好感度を上げて行きたいが、まだまだ発展途上の番組である。 <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p> <p>続いて、「熊本地震」でのKBCの放送対応を説明し、「熊本地震」報道全般について感想や意見を委員に伺いました。</p> <p>委員からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地震発生後はどの局も同じ地域、場面を追って、何度も繰り返し報道していたが、注目され、何度も報道されている地域がある一方でそうでもない被害地域や避難所の報道があった。 ○被災地の状況を伝える際、どの地区がどのような状態で、どこで何が不足し、何を送ったら良いのかなど、全体がつかめるバランスのとれた説明に乏しかった。 ○取材記者による被災者への配慮を欠く稚拙なインタビューもあった。報道のスピードを優先したために質が犠牲になったという感じがした。 ○CMを自粛するような状況のもとで視聴率競争は意味がないと思うので、各ネットワークの枠を超えた緊急時の協力体制があれば、広範囲で正確な情報をいち早く、効率的に提供できるのではないか。 ○災害報道では「被災した方が見る報道」と「被災している方を見せる報道」があり、ヘリコプターの騒音問題など「被災した方が見る報道」をお願いしたい。 ○「震度1以上の余震が1000回以上」といった報道は、九州全体の宿泊施設への影響はじめ、九州経済全体に縮小をもたらす恐れがあり留意が必要。 ○災害時、情報媒体としてのテレビの強みがいかに発揮されると感じた。正しい情報をタイムリーに提供することがメディアの社会的使命であり、特に、二次災害を 방지、被災者支援の動きを促すトリガーになるという意味でも、映像の持つ力は優れていると思う。本格的復興に向け、長期化が予想される状況だが、今後とも一過性ではない息の長い報道に努めてほしい。 <p style="text-align: right;">などの意見、感想を頂きました。</p> <p>これらの意見に対して会社側出席者からは</p> <ul style="list-style-type: none"> ○KBCとしてはエリアで起きた災害であり、ここ数年災害が頻発していることから相当力を入れて取り組んでいる。 ○被災された方への取材のアプローチに関しては過去の経験を活かし、記者を中心に常に教育を心がけている。 ○「被災した方が見る報道」ということについては今回、それなりに進展があったものと思うが、ブロックネットを抱えているKBCの番組としてどうであったかは今回、厳しく総括をしたい。 ○災害時での系列を超えた共同取材については、特にライブでは難しいと考えている。 <p style="text-align: right;">などの説明をしました。</p>